

★★麻しん(はしか)の報告が増加しています【注意】★★

全国各地で麻しんの患者報告が相次いでいます。今年は特にアジアの国々(インドネシア、モンゴル等)に渡航歴のある患者の届出報告が目立っており、注意が必要です。

□麻しんの症状

麻しんの初期症状は、**発熱とカタル症状(咳、鼻水、のどの痛み、眼球結膜の充血等)**です。これらが数日続いた後、麻しんに特徴的とされる**白い粘膜疹(コプリック斑)**が口腔内に現れます。コプリック斑が出現すると、一旦体温は下がったかのように見えますが、すぐに高熱となり、**体に赤い発疹**が出始めて、全身に広がります。肺炎、中耳炎等を合併することが多く、麻しん患者 1,000 人に一人は脳炎を合併し、命に関わります。



□麻しんの感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、その**感染力は非常に強い**とされています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症します。ただし、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。(広い場所であっても、免疫がなければ同じ空間にいただけで感染し発症する危険性が高くなります。)

□麻しんの予防法

麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、**手洗い、マスクのみで予防はできません**。**麻しんワクチンあるいは麻しん・風しん混合ワクチン(以下、麻しん含有ワクチン)**が有効な予防法といえます。麻しん含有ワクチンを受けていない場合は、できるだけ早めの接種をご検討ください。特に、麻しんが流行している国に渡航する前には、必ずワクチンの接種歴を確認し、未接種・未罹患(かかったことがない)場合は、接種を済ませた後に渡航をご予定ください。

□もしかして、「麻しん？」—麻しんを疑う場合—

麻しんウイルスに感染後、**約 10~12 日の潜伏期間**を経て発症します。以下の①~③に該当する場合は「麻しん」を疑い、事前に医療機関に電話連絡してから受診の指示を仰ぎましょう。(直接医療機関を受診すると感染拡大につながる危険があります。)

- ①約 10~12 日前に、海外渡航・国内旅行をした、空港や駅等を利用した、大型イベント等人が多く集まる場所等に行った
- ②麻しんにかかったことがなく、麻しん含有ワクチンを受けたことがない
- ③発熱、咳、鼻水、眼球結膜の充血等の症状がある

参考・引用：

- 国立感染症研究所 麻しんに関する緊急情報 (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/6709-20160825.html>)
- 厚生労働省 麻しん(はしか)に関するQ&A (<http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html>)